



どうする緊急内視鏡 現場で役立つ知識と基本手技

今枝博之/編集

B5 判 / 216 頁 定価 7,920 円 (本体 7,200 円 + 税 10%) ISBN 978-4-7719-0611-2

克誠堂出版, 2025 年 5 月 15 日発行

評者 浦岡 俊夫

群馬大学大学院医学系研究科 内科学講座 消化器・肝臓内科学分野

本書『どうする緊急内視鏡』をいただき、早速に拝読させていただいた。一読して、「緊急内視鏡の最前線に立つ医師が手に取ったその瞬間から現場で活かせる実践力に富んだ一冊」と感じた。緊急内視鏡には、瞬時のリスク評価や判断力、確かな技術、患者・家族への説明力、そして強固なチーム体制が求められる。これらが患者の予後を大きく左右する以上、現場に即した知識と実践的ノウハウを備えることは極めて重要であり、本書はそのニーズに的確に答えてくれる。

本書の内容は、消化管出血、異物誤嚥、胆道系閉塞、穿孔性疾患など緊急内視鏡で遭遇する疾患が網羅されており、各疾患に対する内視鏡的アプローチが明確に解説されている。特筆すべきは、単なる手技の解説にとどまらず、臨床判断の要素、現場での工夫、横断的な連携が盛り込まれている点である。例えば、出血源が特定できない場合の診断の進め方やデバイス選択の根拠、処置後の観察やリスクマネジメントなど現場に必要な情報が丁寧に記載されている。また、インフォームド・コンセントや周術期管理に関する記述も充実しており、医療安全やチーム医療を意識した総合的な対応力を身につける手助けとなる。さらに、全編を通じてフローチャートや図表が多く取り入れられており、

視覚的な理解を助ける構成にも好感が持てる。

本書のもう一つの大きな魅力は、疾患ごとに展開される「具体例」と「ピットフォール」の提示である。例えば、「除去困難な異物への対応」や「食道静脈瘤出血の止血戦略」など現場での判断と行動に直結する内容となっている。これにより、読者は知識の習得だけでなく、実際の行動にどう落とし込むかを自ずと学ぶことができる。

編集を務められた今枝博之教授は、内視鏡診療における豊かな経験と確かな技術に裏打ちされた知見をもつ消化器内視鏡専門医・指導者である。と同時に、極めて穏やかで思慮深い人柄の先生でもある。私自身、慶應義塾大学在籍中にご指導いただいたご縁があり、その当時の温かいまなざしと厳しくも的確な助言に、日々の診療姿勢を正された経験がある。本書の随所には、今枝先生のお人柄や哲学が色濃く反映されており、単なる書籍ではない一冊となっている。

本書は、若手医師にとってはまさに“隣に頼れる指導医がいる”ような存在となり、中堅以上の医師にとっても診療を振り返り、アップデートするための良書である。緊急内視鏡に関わるすべての医師、メディカルスタッフに強く推薦したい。